

西宮 えびす



日本人の生活の中で、もっとも大きな節目であり、おめでたい季節は新春です。かつては、エビス廻しが家々を訪れ、新しい年の祝福を与えてきました。人々が、えびす様に接して正月が来た気分になるのは、昔も今も変わりません。

平成12年
新春号

えびす 平成12年 新春号

▼四季の境内 (十日えびす)



◎編集室から

平成12年は西暦2000年、20世紀最後の年ということで問題になっているのがコンピューターの2000年問題、年号を下2桁で処理していたら99が最後になるのは当然わかっていることながら先送りになっていると、最後には何が起るかわからなくなってしまうとか。どうか元旦午前0時に開夜になってしまわないことを祈るのみです。

さて今号は昭和20年と平成11年福男である上田さんと相馬さんにお話しをお伺いしました。福男には時代を超えて共通する心理があることを感じました。

新潟でご活躍の富高さん、今後も経験を積み重ね自分の言葉で真実を伝えていって下さい。

えびす様とご縁の深い浜村さんはパーソナリティーとしてのご活躍のほかタレントとしては初めての国立大学の講師となられ話題になりました。また古代史や源氏物語に関する著作も多く、傀儡師の隠れた芸能史にも興味をお持ちです。今後も益々のご活躍をお祈り致します。(英)

西宮えびす平成12年新春号 (通巻第12号)

平成11年12月1日発行

発行/西宮神社

〒662-0974 兵庫県西宮市社家町1-17

TEL/0798-33-0321 FAX/0798-33-5355

編集/講務課広報

デザイン/OHTAファーゼン

取材協力/いぬづか写真室 新潟テレビ21

昭和プロダクション 西宮酒造家十日会

サッポロビール 恵比寿麦酒記念館

阪神米穀

お知らせ

「十日えびす」にちなんだ
招福の品々、
平成12年も協賛の
団体・企業から発売予定



- 1 阪神米穀「えべっさんのお米」
- 2 西宮市内の日本酒醸造16社による共同銘柄「えべっさんの酒」
- 3 サッポロビール「エビスビール」
- 4 神戸風月堂「えびす巻」
- 5 NITTEI「エビステレホンカード」
- 6 西宮郵便局「えびす絵入りはがき」
- 7 阪神電気鉄道「らくやんカード西宮えびす」
- 8 十日えびす産物「十日えびすマハロ」

えびす様にあやかった品々誕生物語



えべっさんに扮して愛嬌をふりまく
大関株副社長 長部 二郎さん

酒どころ・西宮の地場産業振興のため昭和六十三年から市内の酒造会社十六社で共同開発しました。西宮神社の近くで湧き出る「宮水」を使って各社で仕込み、品質は統一しているものの醸造元によって微妙に味わいが異なるのが特徴。初詣と十日えびすには境内に臨時に設けられた販売所で、特製のひげをつけて、えべっさんになって振る舞い酒をしています。

えべっさんの酒



恵比寿ガーデンプレイスに鎮座する
恵比寿神社で販売増進を誓う
サッポロビール(株)営業本部 山根 一洋さん

エビスビール

明治二十三年に誕生した本格的なドイツタイプのエビスビール。その醸造元であった日本麦酒醸造会社(現サッポロビール)のその当時の馬越恭平社長は、自社の発展を願い、明治二十六年に西宮神社の御分霊を工場内に祀り、会社の守護神としました。馬越翁はその後、同社をビールシェア7割強の巨大会社に発展させたり、日本にはじめてビヤホールをつくるなど「東洋のビール王」と呼ばれました。



風貌がえべっさんにそっくりだと
話題になった
阪神米穀(株)社長 田中 覚さん

平成三年に西宮浜の新精米工場完成と、お米の自由化に先駆け、厳選された原料に、長年の蓄積された高度の品質管理と、最新鋭のファクトリーオートメーション技術を駆使したオリジナル米のブランド名として親しみを込めて「えべっさん」と名付けました。商売繁盛の神様として全国から崇敬されているえびす様にあやかり、西宮神社の宮司様に揮毫を頂き、米袋に使用しております。

「えべっさん」のお米

正月・十日えびす奉仕巫女奮闘記

正月・十日えびすの期間中約百名の臨時奉仕の巫女さんにお手伝い頂きます。その中のお一人で大学卒業後に新潟テレビ21に就職、現在新人アナウンサーとして活躍されている富高由喜さんに当時の心境をお伺いしました。

巫女奉仕

私が西宮神社で年末年始・十日えびすにご奉仕させて頂いたのは、大学4年生の冬でした。その頃私はちょうど就職活動を終えて、新潟テレビ21のアナウンサーとして働くことが決定。念願の仕事に就けてほっとしたものの、今まで過ごしてきた土地を離れ、遠い新潟へ行くのは、やっぱり踏み切りがつかない・・・、そんな心境の時でした。友人の誘いを受け、学生生活最後の思い出にと挑戦してみることにしました。臨時奉仕の巫女さんの研修をうけた私は、白衣に緋袴姿で大晦日から元旦の朝までは、おみくじの担当につきました。おみくじに一喜一憂しているカップルや、何としても大吉を引くと何度も挑戦するおじさん、凶を引いてあとは昇るだけと自分に言い聞かせるおば



富高 由喜さん

昭和51年12月生、兵庫県加古郡播磨町出身。県立宝塚北高校演劇科から立命館大学を卒業後、難関を突破してただ一人、新潟テレビ21のアナウンサーに採用される。現在は、ニュースと天気予報を担当。

さんなど、皆さまさま。十日えびすでは参拝者にお礼やお守りをお授けしましたが、商売繁盛を願う多くの方々の熱気に圧倒されました。最後に自分でもおみくじを引いてみました。そうしたらなんと大吉！皆さんに福を配るお手伝いできたらと、ご奉仕することに決めたのに、自分が頂いたみたい。ご奉仕をしたことで、関西の人々の復興を目的にしたりしたとか、西宮神社に参拝に來られた皆さんの姿を見て、逆に勇気ももらい、思い切って新潟に行く事ができました。

今昔、昭和と平成の福男

一月十日の本えびすの朝、開門と同時に競われる福男選び。約二百メートルを走って本殿に早く到着した順に、一番から三番までが福男として認証されます。

昭和二十年の十日えびすといえはまだまだ戦時中、その年の八月に空襲で焼失してしまう国宝の本殿をめぐって走った最後の福男としての自負を今に持ち続けています。

福男選びには昭和十八年に初参加して三番福、翌年は二番福になったので一番になるまで頑張るといふ執念で勝ち得た一番福。賞品の外米でつくられた鏡餅を近所におすそ分けするなど、本当に嬉しかったことを覚えています。当時は足の早さだけでなく腕力も多少関係していたことが有利だったのでしょうか。

その年の五月の空襲で我が家を含め近所五軒だけが焼け残った時も福男のお蔭だとよくいわれましたが、何よりも今まで充実した人生を送ることができたのは、常にどこかでえびす様が見守っていて下さったからだと思います。



上田 研蔵さん

昭和3年3月生、建石尋常小学校から関西学院中学部、同大学に進学。終戦直後から関学ボクシング部の復興に尽力、キャプテンとして同部を全国2位に導く。卒業後は、日立製作所から極東開発工業の常務・監査役を経て現在同社社友、関学大体育会OB倶楽部副会長。

平成11年一番福



相馬 聡さん

昭和54年2月生、栃木県那須郡那須町出身。県立那須拓陽高校から大阪体育大学へ進学。現在同大学3年生で陸上部短距離部門のキャプテンを務める。平成9年、日本ジュニア室内大会で優勝のほか平成9年から3年連続で栃木県選手権優勝。自己ベスト記録200メートル21秒54。

初参加で一番福はとれないといわれていたのが本当にびっくりしました。前を走っていた二年連続二番福の平尾さんの転倒で運が変わりました。平成十年夏の集中豪雨で実家が全壊するなどの不幸がありました。福男になってからは七月の栃木県選手権で優勝、二年ぶりに自己ベスト記録を出すことができました。最近、大阪体育大学の陸上部から多くの福男が選ばれているようなので伝統を守ることができたかと安堵する一方、今は部のキャプテンとして苦勞の絶えない日々を送っています。



開門を待つ約2,000人の参拝者

年末・年始のおもな祭典・行事

◆えびす面作り

十日えびすの縁起物である福箕や熊手、えびす面作りが宝塚市郊外の作業所で行われています。

◆迎春準備

初詣の参拝者に授与する龍の干支鈴や絵馬、福矢などの準備が巫女によってすすめられています。

◆19日 巫女研修会 午後1時

初詣・十日えびすに笑顔で参拝者をお迎えする臨時奉仕の巫女の研修会が行われます。

◆27日 煤払祭 午前10時

清々しく新年を迎えるため、笹の葉が先端に付いた巨大なほうきで本殿の煤をお払いします。

◆31日 大祓式 午後4時

人形に知らず知らずのうちに身についた穢を移して、清めのお祓いを行います。

◆31日 除夜祭 午後6時

一年の安泰に感謝をする祝詞をあげたあと、拜殿前の福火に点火、夜を徹して新年を迎えます。

◆1日 初太鼓 午前0時

◆1日 歳旦祭・若水神事 午前6時

新年を祝い、社会の繁栄平和をお祈りします。灘の酒造家の代表が宮水を汲み出し、神前にお供えます。

◆1日 古武道奉納大会 午前10時

西宮市の今津武道会、本體楊心流宗家により拜殿前特設舞台で柔術・薙刀・居合・棒術などが奉納されます。

◆2日 奉射事始祭 午前10時

年の始めにあたり宮中において天皇が行われるお祭りに併せ、皇室と国家の繁栄をお祈りします。

◆5日 百太夫神社祭 午前11時

えびす信仰を全国に広めた傀儡師の祖神を崇めるお祭り。淡路島からえびす舞いが奉納されます。

◆8日 大マグロ奉納 午前9時

十日えびすを前に神戸市東部水産物卸売協同組合などから三百キロを超える特大の本マグロが奉納されます。

◆十日えびす

9日 宵えびす

午後2時有馬温泉献湯式
午後4時宵宮祭

10日 本えびす

午前4時十日えびす大祭
午前6時開門神事福男選び

11日 残り福

平成12年1月

平成11年12月

えびす宮総本社

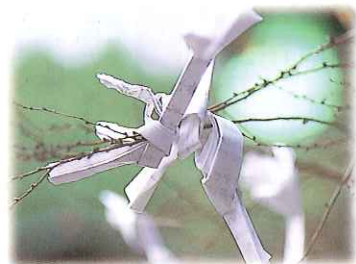
十日えびす



新春初詣
一月一日、二日



新しい年を迎え、誓いも新たに神前で手を合わせ、辛多かれと祈る心に神宿る。おみくじを引いて神慮を伺い、お神酒を戴いて神様のご加護を頂戴いたします。



一月五日(水)午前十二時
百太夫神社祭



えびす信仰を全国に広めた傀儡師(人形遣い)の祖神を崇めるお祭り。この傀儡師の人形操りが淡路人形浄瑠璃や大阪文楽の源流といわれています。祭典に引き続き淡路島からえびす舞いが奉納されます。

一月九日(日)
宵えびす

◆午後二時
有馬温泉献湯式



関西の奥座敷である有馬温泉より角樽に詰めて運ばれてきた「金泉」と呼ばれる名湯を桶に移した後、湯女に扮した芸妓さんが湯もみ太鼓のはやしに合わせて湯もみを行い、適温になったお湯と湯文を神前に奉納します。

一月十日(祝)
本えびす

◆午前六時
開門神事福男選び



忌籠神事のために九日の深夜十二時に閉じられた表大門が十日午前六時に開かれると、外で待ち構えた参拝者が約二百メートル離れた本殿への一番参りを競います。本殿に早く到着した順に一番から三番までがその年の福男として認証され、特別賞品が授けられます。

一月十一日(火)
残り福



十日えびすの期間中、お札や福袋などの縁起物をつけた福笹が神社から特別授与されるほか、境内やその周辺には名物の熊手や福箕を売る吉兆店や露店、興業の小屋掛など約八百軒が軒を連ね三日間で百万人を超える参拝者で賑わいます。

お知らせ

◎開門神事福男選びに協賛して、一月十日の開門前にお待ちの先着千名の方に特別賞品が当選する福引きの整理券・福袋引き換え券を配布します。
◎初詣：十日えびす期間中は境内の駐車場が使用できません。
◎参拝には、公共交通機関をご利用願います。

初詣・十日えびすデータ

初詣	参拝者数	吉兆店・露店数
(元旦・一日)	約五十万人	約三百軒
十日えびす	約百万人	約八百軒
(九日・十日)		

◆午前九時
大マグロ奉納

一月八日(土)

十日えびすの前に神戸市東部水産物卸売協同組合などから約三百キロの特大の本マグロが奉納されます。奉納された大マグロは、「招福マグロ」として拝殿に飾られます。

近年このマグロに硬貨を張り付けて願を掛けることがブームとなっています。

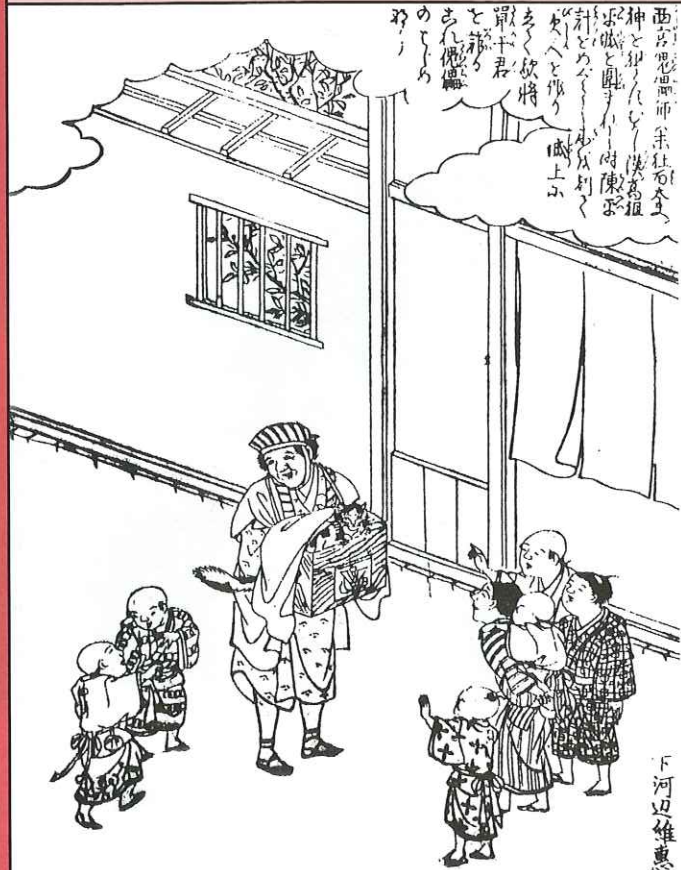




えびす様と文芸

えびすかきが、正月の知らせ

日本の芸能は、季節のお祭りから生まれ、その訪れを告げる役割を持っていました。新春の芸能は、歳神様をお祭りする神事で夷まわしも歳神に扮して家々を訪れ、人々に新しい年の祝福を与えていました。人々はえびす様に接してはじめて正月が来た気分になっていたようでした。徳島で幼少時代を過ごされた瀬戸内寂聴さんは、「昔の徳島では、正月になると近在のお百姓さんが水干に身を改め、えびす人形を持って、戸ごと人形を廻しにきた。『西の宮のえびす...おたんじょうなされたア』彼らの声が聞こえると、奥でお雑煮を食べている最中でもとんで出て餅やおひねりを



下河辺維憲画

首からつるした袋に入れたものだ。」と記しています。西宮神社の境内に鎮座する百太夫神社を祖神と仰ぐえびすかきと呼ばれた傀儡師(人形遣い)は技芸に秀で桃山時代から江戸時代にかけて二十回近くも宮中で上演をしたり全国を巡業してえびす様のご神徳を広め、お札を頒布したことによりえびす信仰が全国津々浦々に広がっていきました。やがてその一派が淡路島へわたり現在の淡路人形浄瑠璃や大阪文楽へと発展してききました。

江戸文学にみる、えびす様

江戸の超人平賀源内は文学にも優れ、その著「根南志具佐」の中で「えびすの笑い声は商人の仲間船」と表現しています。つまり数々の船が隅田川を渡る中であつて商人が仲間を組んで乗っている船が一番活気がありました。また上方の文豪井原西鶴の作品にも随所にえびす様が出てこられます。「世間胸算用」では一月九日の忌籠神事を紹介し、「日本永代蔵」では「神をまつる事おろそかならず、中にも西の宮を有りがたく例年正月十日には人よりはやく参り給ふ」とあります。「好色一代男」では「扇は一おえびすー若多びすーと売り声にすこし春のこちして」と当時の正月風景が福々しく描かれています。



タレント 浜村 淳さん

えびす様に守られて
ぼくの誕生は一月十日です。
京都の町は大雪でした。雪は、えびす様の子守唄のように静かに降っていたそうです。

大学時代から、ぼくは芸能界の仕事をするようになりましたが将来については、まだまだ迷いがありました。そんな頃不思議な夢をみたのです。農村・漁村の家々に首に箱を掛けた人々がエビス人形を廻しながら春の祝福を与えているのです。ときには数十人が禁裏にまで推参して豊作・豊漁を祈願しています。あ、これが西宮神社に本拠を置く有名なエビス廻しの一座なのか。そう、えびす様は芸能の神でもあったのだ！ぼくの進路は決まりました。いまもぼくは苦しいとき、えびす様の子守唄にすがって自分をはげましています。

宮水まつり 十月二日



今回で第十一回目となる、にしのみや宮水まつりが西宮市久保町にある宮水発祥の地記念碑前で斎行されました。宮水娘が宮水発祥の井戸から汲み上げた宮水をお供えして神事が行われた後、宮水を詰めた唐櫃を時代衣装を身につけた酒造メーカーの社員達が担ぎ、古式ゆかしく行列を整えて西宮神社まで運び、西宮市内の十六社の統一銘柄「えびすの酒」の醸造成功を祈願しました。

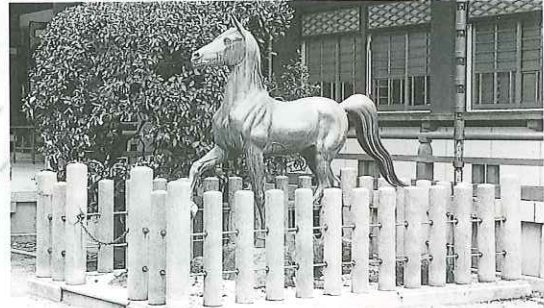
酒蔵ルネサンス 十月二日・三日



今回で第三回目を迎える酒蔵ルネサンスが西宮神社境内で開催されました。西宮の水・酒・名産品と伝統文化を全国発信するとい、ラテームで特設舞台での伝統芸能の上演や酒造メーカーや地元企業のブースでの日本酒の試飲や販売、名産品の即売が行われました。この模様はNTT阪神支店によりインターネットで中継されました。

トピックス

境内探訪



古来より神社と馬の関係は深く今でも願い事を絵馬に書いたり、当社の場合でも十日えびすの忌籠に際してえびす様が馬に乗られて市中を巡幸されるので、神様に障りがないように戸外の門松を逆さにさしかえるという風習が残されています。

紀伯爵の歌碑(写真①)が奉納された上に、大正元年には帝室博物館股野琢総長自筆賛の青銅碑(写真②)が調進されました。顧みますに第二次世界大戦の金属回収時にも優秀な美術参考品として難を逃れ、空襲や阪神大震災の激震にも倒れることなくその勇姿をそのままに今日に伝えています。



神馬と賛歌碑

写真①和歌
はせいづるものとや 神もめててみむ
ふたつのこまの 勇むすがたを

写真②漢詩
鳳臆龍髻 同存逸姿
金鞍玉勒 長侍名詞

「立派な駿馬が両頭姿をそろえて大前に侍り永く大神の守護に当たっている」

(注)この記念碑の銅板面は金属回収の難をうけてしまったので辰馬悦叟氏の令孫悦蔵氏が昭和三十六年に再建されました。



明治三十三年には、古来和歌の宗家だといわれる冷泉為後藤という名声を博していました。